

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2373100912 | | |
| 法人名 | 株式会社日本介護研究所 | | |
| 事業所名 | めぐらす横山 | | |
| 所在地 | 安城市横山町石ナ曾根175 | | |
| 自己評価作成日 | 2023/02/28 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人なごみ(和)の会 |
| 所在地 | 名古屋市千種区小松町五丁目2番5 |
| 訪問調査日 | 2023年3月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前中の横山独自の体操&足も使ったのビーチボールバレー。毎日継続して行うことで、転倒防止や健康維持に繋がっている。
毎月行っているフロアの季節の飾り付けをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、認知症がどのような病気であるのかをまず理解し、個々の入居者の心身のどの部分を支えていけばこのホームで楽しく暮らせるか、と考えながら日々の支援をしている。新人職員にもそのことを伝え指導している。職員間の仲がよく連携がよくとられており、また長期にわたりこの事業所で働く職員も多い。午前中、このホームで行われるアクティビティの時間は1時間あり、前半30分で体操をし、全身を動かさしほぐした上で、椅子に座って輪になってビーチボールを使うバレーが毎日もあり、腕も足も振り回し、声をはりあげることで、コロナ禍での制約の多いストレスに満ちた日々も入居者が健康に楽しくすごすことができ、またその楽しそうな姿が職員の原動力になっていたことがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・理念は「よいめぐりを世の中へ」でお客様へ、社員へ、世の中へ。思いを巡らせ、ワクワクを作ることで良い巡りを世の中に届けます。 ・理念は各フロアや応接間に掲示され、常に意識している。 ・施設会議などで理念に沿った行動が出来ているかなど話し合っている | 法人グループめぐらすの理念である「よいめぐりを世の中へ」をホームの理念としても使い、入居者、職員、地域がつながる理念であることを理解している。月に一度の施設会議で関係性を見直している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・散歩のときや広場に出た時などは近隣の人との挨拶をしている ・地域の清掃活動にも参加している | 自治会に加入している。職員が主体となって地域の清掃活動へ参加している。コロナ禍で現状ボランティアの受け入れはしていないが、系列ホームの受け入れ状況などを参考に、こちらでも受け入れ再開の方向である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・福祉まつりに他事業所とともにグループホームの事を知ってもらったり、作品や写真などを展示したりしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・会議は2カ月に1回開催 ・事業所の現況報告を行い、参加者メンバーからの意見などを聞いている | 基本二か月ごとに運営推進会議を開催し、新型コロナウイルスの流行などで中止になったときには会議のお知らせとして、安城市役所、地域包括に送付している。家族へはお便りとして送付している。今年度は二度の中止があったものの他四度開催し、家族からの質問などを聞く場として活用している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・市の担当者とは密に連絡をとり、わからないことなどがあればすぐに連絡して相談している | 運営推進会議に参加してもらい、また、認定更新など書類提出の際は出向いて関係性を築いている。介護講習の案内も届く。また、グループホーム連絡会に参加し、他の事業所の活動を知る機会を持っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・施設会議でも毎回身体拘束について話し合い、検討している。 ・また委員会も立ち上げ、研修などにも取り組んでいる | ホーム内に身体拘束防止委員会があり、委員が主体となって月に一度のフロア会議で支援について振り返っている。スピーチロックについても学び、声掛け自体が拘束になることもあることを職員は学んでいる。安全のためにエレベーターにはナンバーロックがかかっているが、入居者が望めば職員がつきそって外に出ることはできる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・身体拘束と同じで施設会議にて、がっかりケアと称して虐待に当たらないかどうか話し合いをしている | | |

| | | | | |
|----|--|---|--|--|
| 8 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・今はないが以前利用されていた方が見えたため、学ぶ機会があった。 | | |
| 9 | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約時には十分時間を掛け、利用者や家族等への説明を行っている。 また質問があれば、契約後でも質問に応じている | | |
| 10 | (6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・運営推進会議などで出た質問や要望には必ず応えられるようにしている | 家族の面会訪問時や電話連絡を通して、その意見や要望を必ずきくようにしている。ホーム単体で答えられない時には本部に打診して回答をするようにしている。 | |
| 11 | (7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・施設会議で出た意見などは会社全体への会議に上げ、そこで出た結論は自由に職員がみられるようになっている | 個別の意見を直接本社にあげることができる制度がある。また1on1で面談をして、職員の話聞く場を設けている。本社からも二か月ごとに勤務などに対するアンケートが直接職員あてに送られてくる。パート職員から忌引きの休暇が欲しいと意見が出て、とりあげられた。 | |
| 12 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・人事考課制度を導入し、職員が自らの努力や実績を公表し、それによって給与を上げることが出来るシステムでやっている ・また職員からの職場環境や福利厚生改善したいところを声に上げれるようになっていく。 | | |
| 13 | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・研修は申し出があれば自由に参加でき、また推奨している。研修は会社負担としている | | |
| 14 | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・年に数回の地域の協会に参加し、同業者の意見を聞くことが出来る | | |

| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
|----------------------|-----|--|--|
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回の本人面談を行い、現状の状態や本人の訴えなどと聞き取りしている |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学の段階からご家族様が何に困っているのかや不安なこと、家族関係などを聞き取っている |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の状況を見ながら、本人がいかに生活がしやすくなるかを考え、計画書を作成している。しかしグループホームなので他のサービスの利用には限りがある。 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に入居者様と語らえる環境であり、一人ひとりの個性を生かしながら支援している |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様とは常に連絡を取り合い、本人の要望をお伝えし、面会してもらえるように支援している 何かいつもと違うことが合った場合には連絡を必ずする |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで行ってきた墓参りの継続や自宅への一時帰宅を支援している 本人や家族の希望で帰宅したり、墓参りした人もいる。また、今年度は孫の成人式にあたり、祝いの会に出た人もいる。地域で桜がきれいな公園を入居者からきき、フロアごとに花見にでかける計画もある。年賀状や電話の取次もしている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様の性格などを考慮し、居やすい環境作りに努めている レクを通じて個人の資質を大事にする |

| | | | | | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去になる理由はいろいろあるが、これまでの関係性が継続できるような信頼をもつての退去がほとんどである。またそうなるように利用中から信頼関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや希望、施行の把握に努めている | 職員は日常のケアの中で、あるいはレクの中で利用者に関わりかけ、思いや意向の把握に努めている。汲み取りが難しい場合は表情や態から推し量っている。情報は電子カルテや職員間のラインワークスにて共有し反映できるよう取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでのサービス利用の経過は把握する様に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日一人ひとりの心身状態や現状の把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 施設会議にて入居者様一人ひとりの問題に対して検討し、それを介護計画に反映している | 職員は居室担当制をとり、日常の様子や変化はラインワークスで情報共有されている。計画作成者が介護記録の内容や職員の意見、家族に見直し前に聞き取った意向や要望をもとに基本6カ月で計画を見直している。状態変化時には都度見直し、原状に即した計画となるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や、変化があった場合の情報共有は会社のlineworksを通じて計画の見直しに反映している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状態変化があった場合、その方のニーズに合わせて他事業所などに移動などの支援を行っている | | |

| | | | | | |
|----|------|---|--|---|---|
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 受診などの必要があった場合、介護タスキナーの手配や開業医への紹介などを行っている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設の主治医の訪問診療はともかく、専門医への情報提供を主治医から行ってもらい、受診につなげている | 従来のかかりつけ医を継続する場合は家族受診としている。協力医は2週間ごとに全員を往診し、専門医との連携も図られている。グループ内看護師とも情報共有がされており、適切な受診ができるよう支援している。6月から月1回以上歯科の訪問があり、歯科衛生士の口腔ケア指導も受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日中は近くの事業所の看護師との情報共有を行いながら、また夜間はオンコール体制をとりつつ、本社の看護師とも連携を取っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 急な入院があっても主治医から診療情報を提供し、退院時期には病院へ出向き、本人の状態を確認しながら関係作りを行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期に入った場合はご家族と協議を重ねながら、対応できる事業所への紹介に努めている | 入居時に事業所の方針を説明し理解を得ている。以前看取りを実施したこともあるが今は医師との連携体制が確立されていないため実施していない。状態変化時には家族と話し合い意向を確認し、常時医療が必要となった場合等は法人内の他施設を紹介している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生は応急処置が出来るように、ADLの使用法や心マのやり方の研修を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 業務継続計画を作成しており、業務が継続できるように定期的に災害時の訓練や食料品などの備蓄を行っている | 5月には消防訓練、3月はトリアージの避難訓練を実施し、夜間想定は来年度実施を予定している。衛生用品や備品等の備蓄は準備されているが水や食糧関係は今後の課題となっている。今後地域連携も考慮に入れて関係者と話し合いを進めていきたいと考えている。 | 最低3日分の水や実際に役立つ食糧品の備蓄を確保されたい。また、地域との連携も考慮されることを期待する。 |

| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
|---------------------------|------|--|--|--|
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ホコリやプライバシーを損ねない言葉遣いや声掛けに気を配っている | 「苗字にさん付け」が声掛けの基本で、人格を尊重し失敗時には小声でさりげなく、時にはジェスチャーも使って対応している。フロア会議で「がっかりワード」と称して事例を基に不適切ケアがないかどうか職員間で話し合い検討している。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 御本人の話を聞き自己決定できるように働きかけている 思いや希望を話しやすいように声掛けをしている | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 御本人の話を聞き支援している 体操やレクの時間は設けているが、その他の時間は自由に過ごしていただけるように気をつけている | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの際はどの服を着るか聞き、服も手に取りやすくしてある 入浴後にお肌の手入れをしていただく | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 常に食事を楽しみにしてくださっている。嚥下体操なども行っている 美味しく食べていただけるように味付け盛り付けを工夫している | 食材が届き手作りしている。季節の行事食を取り入れたり、夏祭りではたこ焼きや焼きそば、フランクフルトを提供している。誕生日には手づくりのケーキでお祝いし、おやつレクでゼリーを作ったりしている。個々の状態に応じて刻みやムース食にして食べやすい状態にし楽しみとなるよう支援している。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご本人様の食事や水分量など一人ひとりの状態に合わせ、ムース食や刻みなど食べやすく支援している | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアは必ず行っている | |

| | | | | | |
|----|------|---|--|---|--|
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレ誘導など、その方に合わせて声掛け支持率に向け支援している | 排泄チェック表に基づき誘導や声掛けで日中はなるべくトイレでの排せつができるよう支援している。夜間は見守りカメラや眠りスキャンも活用しながらトイレ誘導やパット交換等個別対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量を気にし、声掛けやラジオ体操などしている 毎日の体操の中で便秘解消運動を取り入れている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 声掛けを行って希望に沿った入浴を楽しんでいただいている 入浴する日は週2回と大体決めている | 週2回午前帯で入浴している。拒否時は声掛けや職員の交代、時間をずらす等で対応し、時には清拭に切り替えることもある。希望があれば好みの石鹸やシャンプーにも対応し、入浴後のスポーツドリンクを楽しみにされている方もある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝の環境作り、ベッドメイクや日中体操などをし身体を動かしメリハリある生活を支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている 訪問診療時の意思の指示、説明を情報共有することにより職員が薬の目的を理解できるようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 気分転換に散歩や季節のレクなどを楽しんでもらっている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族と協力し外出は支援している | 天候や健康状態を見ながら事業所周辺を散歩している。玄関前の庭でのティータイムや近くの畑での作物の収穫で気分転換を図っている。5月にはフロア毎にデンパークへ出かけ、春のお花見も予定している。専門医の受診や実家への帰省が家族の協力で実施され、外出を支援している。 | |

| | | | | | |
|----|------|--|---|---|--|
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 支援できていない | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族と一緒に協力しながら支援している 一部の入居者は電話にて家族へ連絡をしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は居心地良く過ごせるよう季節感を取り入れている | 共用空間には職員と協力して作った季節を感じられる貼り絵や縫い絵等々の作品が飾られ、開放的で庭の様子を眺めることもできる。換気を心がけ、モップがけの床掃除をお手伝いされる方もある。テーブルのほかにソファもあり、都度配置を変えて心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 常にフロアがそのようなところになるよう工夫している 一人になりたい人テレビを観たい人は居室にて自由に過ごしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人が使い慣れたものをおいていた だき、安心して居心地良く過ごせるようにしている | 本人の使い慣れたものや馴染みのもの、仏壇や希望される場合は冷蔵庫も持ち込みでき、居心地よく過ごせる空間となっている。衣類や布団類の入れ替えは家族に協力を依頼している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全にわかりやすくし、生活できるようにトイレなど明治などして工夫している | | |